

◎「経営改善に関する県民への誓約シート」

公益法人

指定出資法人名	財団法人 埼玉県国際交流協会	所管部局 (所管課)	県民生活部 国際課
---------	----------------	---------------	-----------

現 状

法人の役割 (法人設立の趣旨・目的)	県民自らが主体となって進める国際交流及び国際協力の拠点として、文化、学術、スポーツ、産業等の幅広い分野における交流及び協力を通して世界各国の人々との相互理解及び友好親善を促進し、埼玉県の福祉と文化の向上に寄与する。	現行中期経営計画の期間	H22年度 ~ H24年度
-----------------------	---	-------------	---------------

経営目標	数値目標		経営の現状と課題
	数値目標	左記に対する実績(過去3年)	
1 市町村、法務省東京入国管理局、県弁護士会、県社会保険労務士会、国際協力機構(JICA)、日本語国際センターなど関連する団体と幅広く連携を図り、在住外国人への支援を進める。	1 外国人相談件数 H23: 3,350件、H24: 3,400件	1 外国人相談件数 H21: 3,226件 H22: 5,367件 H23: 4,509件	<p>【経営の現状】 当協会は、本県における国際交流・国際協力の拠点として、在住外国人の支援、NGOやボランティアの支援、県民の国際理解の促進など、公益的な事業を継続的に実施している。 これらの事業を実施するに当たり、パスポート関連事業で得た利益をその財源に充当することで、県補助金に過度に依存することのない比較的自立した運営を行っている。</p> <p>※平成23年度決算額 収入 3,233,337千円 (内訳) ・県補助金・委託料収入 34,723千円 ・収益事業収入 3,100,428千円 ・その他の収入 98,186千円 支出 3,226,518千円 (内訳) ・公益事業支出 136,115千円 ・収益事業支出 3,090,403千円</p> <p>【課題】 当協会は公益性の高い事業を実施しており、平成25年4月における公益財団法人移行を目指し、準備を進めているところである。また、公益事業の実施に当たっては、前述したとおりパスポート関連事業で得た収益を財源として充当している。 しかし、パスポート発給事務の市町村への権限移譲が進んでおり、</p> <p>現在の財務状況では、公益認定の要件である「公益目的の事業で費用の1/2以上を支出する」という基準を満たすことができない。 そこで、公益財団法人への移行に伴い、収益事業のうち、収入印紙・県証紙売りさばき事業を廃止することとした。 当該事業を廃止することにより、公益目的事業支出が全費用の1/2となる見込みである。</p> <p>※平成22年度収益事業の内訳 収入 3,265,086千円 (内訳) ・収入印紙・証紙売上額 3,065,118千円 ・収入印紙・証紙売りさばき手数料 31,009千円 ・写真撮影事業 134,602千円 ・その他 34,357千円 支出 3,288,238千円 (内訳) ・収入印紙・証紙購入費 3,105,918千円 ・収入印紙・証紙売りさばき経費 365千円</p>
2 NGO・ボランティアの活動に対する支援及び連携を進めるとともに、その活動を担う人材の育成を図る。	2 彩の国さいたま国際交流・協力ネットワーク加盟NGO団体数 H23: 266団体、H24: 277団体	2 彩の国さいたま国際交流・協力ネットワーク加盟NGO団体数 H21: 247団体 H22: 194団体 H23: 195団体	
3 次代の担い手である子どもたちの国際理解を深めるため、教育現場や地域における国際理解教育を支援する。	3 地球市民育成事業実施件数 H23: 70件、H24: 75件	3 地球市民育成事業実施件数 H21: 65件 H22: 66件 H23: 75件	
4 パスポート関連事業など、自主財源の確保やコスト削減等に努め経営基盤の強化を図る。	4 写真窓口利用率 H23: 43%、H24: 44%	4 写真窓口利用率 H21: 41.5% H22: 41.7% H23: 40.6%	

経営改善に関する県民への誓約制度における目標設定

目標設定年度		平成23年度		目標達成年度		平成25年度			
設定目標				目標の設定（理由）		目標達成時の効果		参考データ （過去の推移等）	
<b>【法人の使命・役割の適合】</b> 通訳・翻訳ボランティアの協会登録者数420人以上				地域の国際化を進める上でボランティアが重要な担い手となるため、通訳・翻訳ボランティア登録者数の増加を目標として設定した。		在住外国人への支援体制が一層充実し、地域の国際化が進む。		通訳・翻訳ボランティアの協会登録者数 20年度:21言語 232人 21年度:23言語 313人 22年度:23言語 397人 23年度:23言語 423人	
<b>【財務・経営の改善】</b> 賛助会員600人・団体以上				地域住民に支えられた協会の経営を進めるため、協会のサポーターである賛助会員の増加を目標として設定した。		協会を支える県民や団体が増えるとともに財源が確保され、公益事業が一層充実する。		賛助会員数 20年度末:632人・団体(個人会員500人・学生6人・団体会員107人・NGO会員19団体) 21年度末:590人・団体(個人会員461人・学生10人・団体会員98団体・NGO会員21団体) 22年度末:474人・団体(個人会員350人・学生12人・団体会員90団体・NGO会員22団体) 23年度末:580人・団体(個人会員432人・学生5人・団体会員104団体・NGO会員39団体)	
<b>【組織・業務の改善】</b> グローバル人材埼玉ネットワーク会員数600人・団体以上				これまでの地域の国際化の取組だけでなく、今後はグローバル化を積極的に展開することが求められていることから、ネットワーク会員数の増加を目標として設定した。		県全体のグローバル化が進展するとともに、グローバル人材の育成に寄与する		グローバル人材埼玉ネットワーク会員数 23年度末:266人・団体	

**目標の進捗状況**

設定目標	平成23年度 数値 累計数値（目標数値に対する進捗率%）	平成24年度 数値 累計数値（目標数値に対する進捗率%）	平成25年度 数値 累計数値（目標数値に対する進捗率%）
通訳・翻訳ボランティアの協会登録者数 420人以上	423人（100.7%）		
賛助会員600人・団体以上	580人・団体（96.7%）		
グローバル人材埼玉ネットワーク会員数 600人・団体以上	266人・団体（44.3%）		
	【法人コメント】 いずれの目標も達成に向け、様々な機会を捉えた取組を行った結果、順調に進捗している。	【法人コメント】	【法人コメント】

**目標の達成結果（最終年度）**

達成結果
【法人コメント】

**評価（最終年度）**

1次評価 （法人自己評価）	2次評価 （所管部局評価）	総合評価 （管理部局評価）

**取組に関する分析・次期計画への反映（最終年度）**

【未達成の原因（未達成目標があった場合）】

【取組に関する課題・今後改善すべき点等】

【次期中期経営計画等への反映】